

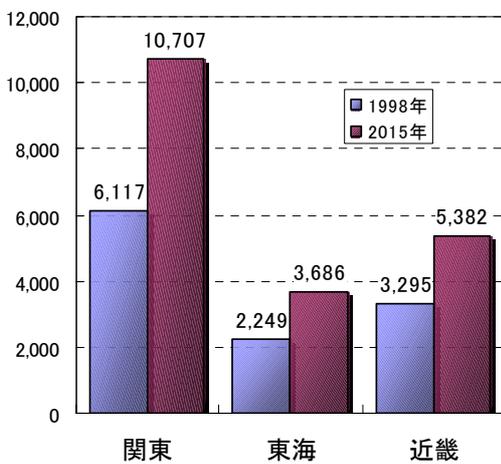
(5) 少子高齢化の進展

・東京圏は少子化の傾向が顕著であるほか、今後、全国に比べて高齢者数の増加がもっとも顕著になると見込まれる(図1-12)。このため、少子高齢化に対応し、高齢者に加えて障害者など誰もが安心して快適に暮らせるための地域や環境の整備が課題となっている。

○今後、全国に比べますます顕著になる少子化、高齢化への懸念

- ・全国的な少子化・高齢化の進展の中で、特に東京圏は少子化の傾向が顕著であるほか、関東地方の人口集積の多さ等により、今後、その増加がますます顕著になる地域である。
- ・子育てをされている方や高齢者、障害者の方々は日常生活環境において、移動など様々な不便を感じることもある(図1-13)。このため、誰もが安心して快適に暮らすためには、地域コミュニティーづくりをはじめ、高齢者用住宅や福祉施設、子育て支援施設等、生活環境の整備や交通、公共施設などさまざまな分野で、ベビーカーや車椅子にやさしいバリアフリー化を進めていく必要がある。(図1-14、図1-15)

図1-12 3大都市圏における高齢者の増加



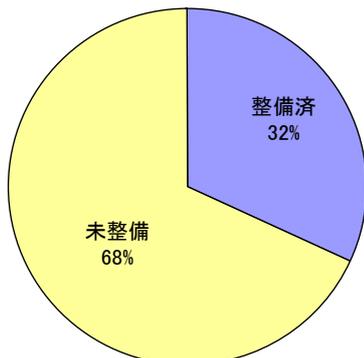
【高齢者:65歳以上の男女】

出典:総務庁統計局「人口推計資料」、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県将来人口(1997年推計)」

図1-14 道路のバリアフリー整備の状況

市街地(DID)における直轄国道の歩道の整備は、まだ3割程度である。

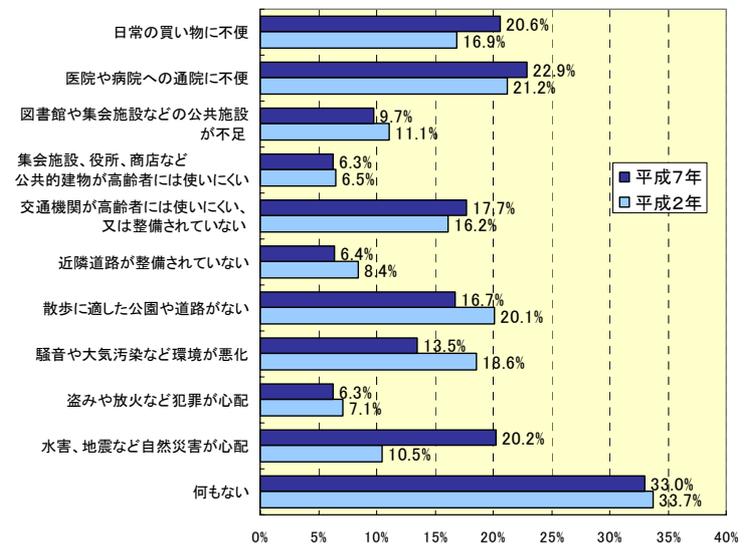
市街地(DID)における直轄国道の歩道空間バリアフリー化状況(H14年末)



出典:関東地方整備局資料

図1-13 高齢者が居住地域に感じる問題点

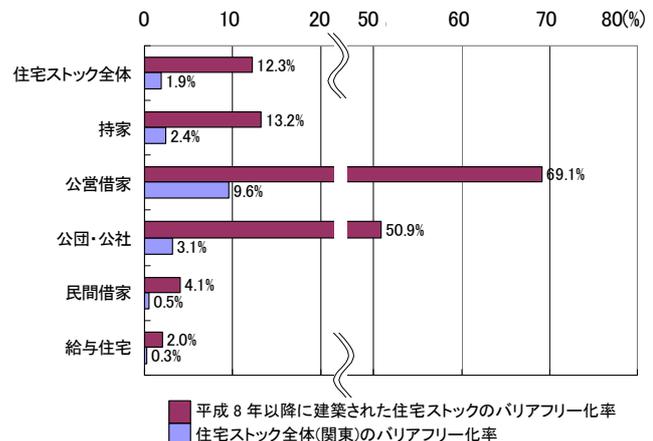
高齢者が居住地域に感じる問題点として、「日常の買物」「交通機関」を指摘している。



注:調査対象は、60歳以上の男女(施設入居者を除く)
出典:高齢者白書(平成10年版)

図1-15 住宅ストック全体及び平成8年以降に建築された住宅ストックのバリアフリー化率

住宅のバリアフリー化率は、住宅ストック全体の1.9%、平成8年以降に建設された住宅でも12.3%しかない。特に、民間における住宅へのバリアフリー対応が低い。



出典:「平成10年住宅・土地統計調査」総務省特別集計より作成